

# でこぼこのひみつ

一宮市立中島小学校一年

水野 陽遥

あるにちようび。わたしはおかあさんとでかけた。ほーるにたくさん  
のひとがあつまっていた。

「ボランティアアフェスティバル」とかいてあった。おかあさんはわたし  
のをひいて、すたすたとたくさんひとのなかへはいっていった。

そこで、わたしは、きになるものをみつけた。かみにあなをあけてい  
るひとがいた。わたしは、かみにあなをあけてあそんでいるのかとおも  
ってみている。

「てんじをおしえてくれるよ。やってみる？」  
とおかあさんにきかれた。

「やってみよう!!」

わたしのはじめてのふくしたいけんだった。とてもやさしいかかりのひ  
とに、しんせつにおしえてもらえた。てんじは、めのふじゆうなひとが  
でこぼこをさわってよむもじだとせつめいをきいてから、どうぐにかみ  
をはさんで「みずのひなた」とぼうであなをあけるたいけんをした。や  
さしくおしていたら、あながあかなくて、

「つよくおしてね。」

とおしえてもらいながらぼちぼちあなをあけ、六もじなのにたくさん  
あなをあけた。そして、しおりがかんせいした。めをとじてさわってみ

た。でこぼこしているだけで、これかもじとはわからなかった。  
「くんれんをしないとわからないね。」  
とおしえてもらった。

かえりのえれべーたーでさつそくてんじをみつけた。すうじの「一、二、  
三、あく、しまるたくさんのでこぼこがあった。さわってみただけやっ  
ぱりわからなかった。

わたしは、またてんじをやってみたくおもった。てんじは、めのふ  
じゆうなひとにとってたいせつなものだとわかった。

しんにゆうせいかんげいかいで、おにいさんおねえさんが、てをうご  
かしながらうたってくれた。てのだんすとおもっていたらしゅわという、  
みみがふじゆうなひとにつたわるといせつなものだとせんせいがおしえ  
てくれた。

てんじもしゅわもなかなかであわないけど、きかいがあつたらおぼえ  
て、ひつようなひとのやくにたてたらしいなとおもった。

